

## 『取材申し込み受付中』視覚障害への合理的配慮のヒントがここにある。第33回アメディアフェア4月27日東京都練馬で開催！

今年2月に35周年を迎えた株式会社アメディアが主催する独自の展示会では、21もの企業・団体をぎゅっと詰め込み充実の体験をみなさまにお届けします。

株式会社アメディア

イベント

ナビ

バリアフリー

合理的配慮

歩行支援

福祉

視覚障害

● 2024年04月11日 16時45分



音声読書器や立体印刷、屋内外でできる歩行支援など、障害当事者のみならず、4月から義務化された合理的配慮（バリアフリー）に応えるヒントが見つかる展示会を、東京都練馬区立・区民産業プラザ ココネリホールにて開催します。

株式会社アメディア(東京都練馬区 代表：望月優)は、初期モデルの「ヨメール」をはじめ現行モデルの音声読書器「よむべえスマイル」「快速読むべえ」の開発・販売を通して視覚障害者の活字バリアフリーに取り組んでいます。

2019年からは目が見えなくても歩ける地図づくりをスタートし、ナビレク・バリアフリーマップは現在4800以上がナビ広場に公開され、専用アプリ「ナビレク」の利用者は1万を超えました。

昨今は歩行支援や音声読書器も多様なラインナップが展開されるようになり、弊社でも横の繋がりを持ち、アプリや機器を組み合わせることで、視覚障害者の生活が自立し、もっと豊かになることを目指しています。



### 視覚障害者を個人として尊重するバリアフリー

2024年4月より義務化された合理的配慮の内、視覚障害者に対しては声掛けがメインとなっています。頼れる環境づくりは重要ですが、選択肢が人に頼るだけではバリアフリーとは言えません。

例えば、店舗、施設へ行くためのナビゲーション、あるいはパンフレットや案内を読むOCRもポケットサイズからデスクトップサイズまであり、それらが配備されていれば、目の不自由な人も自分のタイミングで気兼ねなく楽しむことができます。

見える人にとってこのアメディアフェアが普段、触れることのない視覚障害者の使う機器やアプリ、サービスを知っていただく機会になれば幸いです。

各メディア様の取材お申し込みもお待ちしております。ぜひ、体験にいらしてください。

## 裏表のないインナーが視覚障害者に人気の予感

出展企業：HONESTIES株式会社

縫い目がなく、首回りも差がない作りで

裏表と前後のない、どう来ても正しくなるインナーを開発・販売している企業です。

洋服の様々な要素から"正しい向き"を探して着ている視覚障害者にとって、ストレスフリーな大変便利な製品です。アメディアフェア初出展です。

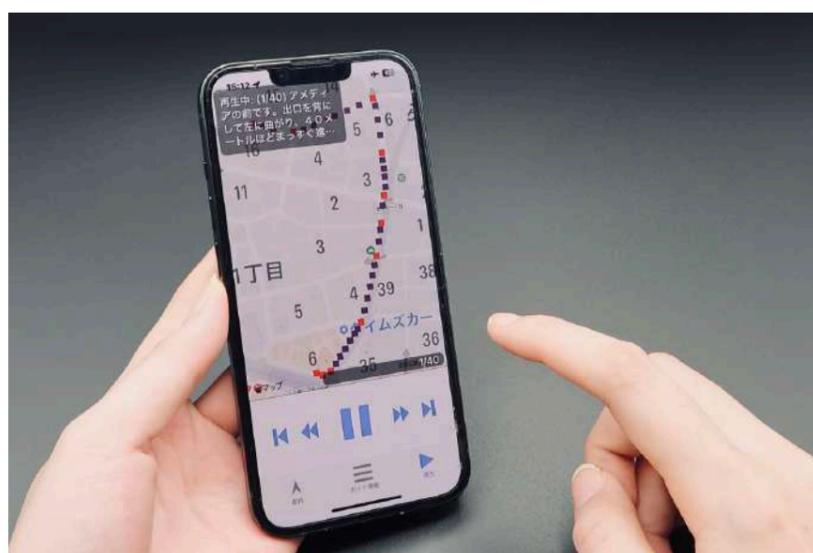
## パートナーであり、家族でもある盲導犬について知ろう

出展企業：公益財団法人 日本盲導犬協会

盲導犬の育成や視覚障害者への貸与、訓練を行っています。

目の代わりとなって様々な道路状況を伝えてくれるパートナーとの歩行は頼もしく、家族でもある盲導犬との外出は視覚障害者を笑顔にします。

フェア当日は盲導犬との歩行体験会を開催します。



### 開催概要

#### 第33回アメディアフェア

日時：2024年4月27日 土曜日 10時30分から15時30分

会場：練馬区立・区民産業プラザ ココネリホール

特設ページ

<https://www.amedia.co.jp/event/amediafair/index.html>

アクセス：都営大江戸線、西武池袋線「練馬駅」最寄り

2回中央北口よりデストリアンデッキ直結

音と振動のナビゲーション「ナビレク」で駅と会場、会場

内を案内します。

都営大江戸線練馬駅改札からCoconeri2階

<https://navirec.amedia.co.jp/16651/>

第33回アメディアフェア2024会場内案内

<https://navirec.amedia.co.jp/32262/>

### <取材について>

視覚障害者の外出についてやバリアフリーマップ又は弊社への取材をお待ちしています。

代表取締役 望月優がインタビューにお答えします。

### <リリース元>

株式会社アメディア

〒176-0011

東京都練馬区豊玉上1-15-6 第10秋山ビル

電話：050-1791-2070

ファクス：03-3994-7177

メール：navibiz@amedia.co.jp

1989年の設立依頼、視覚障害者の自立を支援することにテクノロジーで挑戦。

代表取締役 望月優は、視覚障害当事者の立場から、特に音声で印刷物を読み上げる製品「よむべえシリーズ」の開発に注力。

2016年より視覚障害者の外出インフラの向上を目的に、ナビアプリ開発に着手、

2019年には、現在のナビレク・バリアフリーマップの仕組みを確立させ、視覚障害者のみならず

見える人にとっても使いやすいバリアフリーマップとして、誰もが住みよい街づくりへの貢献を目指す。